



東村山稲門会ニュース 今月で200号

東村山稲門会ニュースは今月号をもって200号となりました。記念すべき第1号は設立総会から5ヶ月後の平成9年4月に発行され、創刊から3年余りは初代会長大西幸夫さんを中心に故塩見さん、田口さん、伊藤さんが編集を担当しました。当初はA4版1～2枚で同好会の世話人からのワープロ原稿を切り張りし、まさに手作りのニュースでした。

その後伊藤さんのご努力で原稿の授受をEメールで行うようになり、編集もパソコンで出来るようになりました。また当初からポストパーソン制度を取り入れ、ニュースを会員皆様の自宅に届けて郵送費の削減にもなりました。平成12年9月からは井垣さんが編集を担当し、約5年間、印刷・封入等一人何役もこなして頂きました。101号からは伊藤さんに再び編集をお願いし、大変なご努力をして頂きました。そして117号（平成18年12月発行）から198号まで7年間の長きに渡って、中村真弓さんに編集を担当頂きました。またこの間、稲門会で購入した印刷機で平成22年11月まで、當摩照夫さんに大変なご協力をお掛けし、カラー印刷を行って頂きました。その後はコロニー印刷（株）に印刷を依頼しています。（残念ながらカラー印刷ではなくなりました。）

これまでニュース発行にご協力頂いた多くの会員の皆様に心から感謝申し上げます。毎月8ページのニュースは会員の絆を深める大きな役割を担っております。全国の稲門会にも類をみないこのニュースの発行は、わが稲門会の誇りであり、これからも会員皆様のご協力のもとでニュース発行を継続していきたいと思ひます。

（當間 昭治 記）

会からのお知らせ

○ 第18回定時総会

11月17日（日）午後2時からサンパルネで開催されます。ご参加予定の皆様はお忘れなく、又返信葉書未済の方は至急返送ください。なお、当日の懇親会へのご家族の参加（会費3,000円）も歓迎します。

ご希望の方は事務局（當間昭治 TEL 391-6023）宛連絡願ひます。

○ 平成25年12月定例役員会

日時 12月7日（土） 14時～16時30分
場所 東村山市シルバー人材センター

○ 11月、12月生まれ合同お誕生会

日時： 12月7日（土）17:00～19:00
場所： 割烹「丸藤」久米川駅南口から徒歩1分 電話 042-395-5646
会費： 3,000円

11月、12月生まれの方は、このお誕生会へご参加ください。お待ちしております。尚、誕生月ではないが誕生月の方をご一緒にお祝いして下さる方のご参加も歓迎いたします。また誕生月該当者の方で、下記されていない方は担当幹事（滝川桜子 394-8187）までご連絡下さい。

☆ 11月お誕生の方々（敬称略 14名）

栗島三郎、青柳真一、石川 武、小亀輝雄、佐藤守彦、佐藤喜一郎、坂本英夫、中尾栄一、野村保夫、松坂伊智雄、高澤壽佳、清水 総、大根田真也、 竹部和典。

☆ 12月度お誕生の方々（敬称略 14名）

一色泰久、井出 巖、江藤昌明、石塚征雄、川合幸雄、工藤崇士、小森敏孝、中村幸宏、當摩彰子、長野長生、藤沢博恭、益田 昂、吉村 正、山路和夫。

（滝川 桜子 記）

○ 退会

山室 勲さん(死去)
伊藤 友己さん(自己都合)

訃報

当会会員山室勲さん(S31・理工)には9月25日(水)ご逝去なされました。
通夜は9月29日・葬儀は9月30日にベルホールで行われました。心からご冥
福をお祈りいたします。なお、会則により生花をお供えし弔電を差し上げました。

○ 第84回 雑学講座(映画会)

(東村山教育委員会後援)

日時 平成25年 12月 14日(土) 15時～17時30分
場所 サンパルネ 2F コンベンション ホール
映画題目 「ローマの休日」

昨年の「ビルマの豎琴」に引き続き、第84回雑学講座は、映画会
として、4回目を迎えました。2回 戦争を背景とした映画が続きました
ので、今回はおとぎ話の様な、楽しい名画オードリーヘップバーン主
演の「ローマの休日」をご覧ください。1954年に公開されたこの映
画は、今も尚 ベスト10指に入る心癒される、感動的名画です。(日本語版)



会員の皆様、そして市民の皆様 お誘い合わせの上、ぜひ ご来場下さい。(入場無料)

(福田 昇七 記)

☆☆ 大学関連ニュース ☆☆

☆ 10月20日 ホームカミングデー ・ 稲門祭盛大に開催

10月20日(日)第48回ホームカミングデーが開催され。生憎の雨にもかかわらず招待年次の多
くの校友が記念会堂の式典に参集した。鎌田総長の歓迎の辞及び早稲田大学の現状・将来展望に
ついての話のあと、福田校友会代表幹事から私学の雄として今日の早稲田大学があるのは、59万
校友が社会のあらゆる方面で活躍された賜物であり、今後とも母校に対する支援をお願いしたい
との挨拶があった。本年は招待校友の代表として弁護士の大沢孝征氏から学生時代の思い出や法
学部の齊藤金作先生や文学部の仁戸田六三郎先生の人間味溢れる講義から、また個性ある多くの
学友から弁護士の仕事についてからも役立つ多くのことを学んだとの話があった。また同期入学
の吉永小百合さんに会えるかと思い、文学部校舎をたびたび訪れたとのエピソードも話された。
最後に全員で校歌を歌い、久しぶりに早稲田の雰囲気を楽しまれたようであった。

午後から稲門祭が行われたが雨のため盛り上がり欠けた面もあったが、多くの校友が秋の早
稲田のキャンパスで学生時代を懐かしみ、同期の仲間と杯を交わす風景があちこちで見られた。
東村山稲門会からは大内さん、吉田(勝)さん、野田直さんが早朝から実行委員として活躍され
た。本当にお疲れさまでした。また今年の福引抽選の結果はふるさと賞・職域賞以外あまり芳し
くありませんでしたが来年に期待しましょう。実行委員のほか抽選に立ち会って頂きました高橋
(正)さん、當間さん、山本さん、守屋さん有難うございました。

☆ 学徒出陣70年追悼会行われる

降りしきる雨の中、早稲田大学でホームカミングデーの前に戦没者追悼の献花式が開かれ、元
学徒兵や戦没者遺族ら約70人が参加し平和記念碑に献花し、不戦の誓いを新たにした。元学徒兵
の寺尾哲男さん(90)は「学徒出陣という事実があったことを今の学生らも覚えていて欲しい」
と挨拶した

早大では1943年10月15日の壮行会で当時の田中穂積総長は「今こそ諸君がペンを捨て剣をとる
べき時期が到来した」と訓示し、4000人を超える早大生を戦地に送り出した。

☆ 稲門祭記念品販売の福引結果報告

11/20(日) 稲門祭は冷たい雨が終日間断なく降り続ける中で開催され、参加者の出足も低調で、屋外のイベント等は中止され、当日の会場での記念品販売は例年の数分の1という結果に終わりました。

その中でホンダFITを始めとする豪華景品の福引抽選会が行われ、残念ながら東村山稲門会は上位賞を逃してしまいましたが、職域賞、ふるさと賞各2本、校友会賞8本が当選となりました。当選者は以下の方々です。

職域賞：木谷肇さん、山本岩男さん、

ふるさと賞：滝来洋二さん(連番で2つ獲得!!)

校友会賞：小亀輝雄会長、高鷲近さん、幸田瑞雄さん、高橋正夫さん、當間昭治副会長、吉田勝さん、石塚征雄さん、長井治さん、

外れた方も来年に期待をして、ご協力を宜しくお願い致します。

(吉田勝 記)

☆☆ 他稲門会・大学関係行事 ☆☆

11月10日(日) 三多摩支部大会 早稲田大学大隈小講堂

青山・大内・岡田・小亀・滝川・高橋・福田・山下(8名参加予定)

11月29日(金) サポートーズ倶楽部フォーラム リーガロイヤル 小亀会長出席

10月5日(土) 第83回雑学講座報告

「大谷 明裕 ライブ&トークの夕べ」が開催されました。

今回の雑学講座は国民体育大会の影響か、会場の確保がままならず午後6時40分開場7時開演とこれまでのそれとは実施時間帯が異なり夕刻の開催となりました。講演は「大谷 明裕 ライブ&トークの夕べ」と題し、現役の作曲家にお願いしました。会場のサンパルネ・コンベンションホールは会議用ホールとしての設備が中心の為、音響機器について一カ月前から使用機材等様々な検討を重ねました。そしてサンパルネ・コンベンションホールと会員数名の協力により、前日夜間にミキサー、ギターアンプ等持ち込み音出しチェックを行い万全を期しました。



第一部は大谷明裕氏自身が歌いレコーディングした代表曲「俺たちのC'est la vie」「青春徒然草～あの日のアイツ～」「早稲田松竹」「借りた八千円～一言芳恩～」等6曲。いずれも早稲田の杜で青春の一時期を過ごした者にとって、その息吹を思い起こさせるに十分な曲でありました。

曲の合間のトークでは作曲家がヒットを生み出すには相性の良い編曲家が必要な事、大御所の作曲家にはその曲のスタイルによって編曲家が決まっている事。CDが一枚売れた時に印税がどの位入るか、NHKの歌番組で歌われた時でも全国ネットとローカルでは印税の金額が異なる事、CDが出来るまでのディレクター、作曲家、作詩家そして歌手との関係性、仕事の流れ方等、実名を上げながら多くの興味深い話を披露してくれました。

第二部では氷川きよしが歌っている「満天の瞳(ほし)」「幾千もの祈り」小金沢昇司の「願・一条戻り橋」「有難う…感謝」の4曲。そして質疑応答の後大谷氏のギター伴奏により何時もとは一味違う「東村山稲門会の歌」を皆で歌いお開きとなりました。

当日は小雨降るあいにくのコンディション、通常の雑学講座とは異なる時間帯といった事もあり、出席者数は東村山稲門会役員16名、一般会員13名、一般市民19名の計48名と何時もとより少数でした。しかしこれにより聴衆は大谷氏の息使いを感じながら、大谷氏は聞き手の表情を確認出来る親密な、心の通う空間の演奏会となりました。「サロンのライブ」とも言えそうな、贅沢にその醍醐味を満喫出来る適当な規模だったのかも知れません。雨の中をわざわざお越し頂いた皆様は、彼のギター演奏、生の歌声とその曲の素晴らしさに触れきつとご満足頂いた事でしょう。



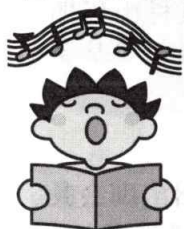
(大内 一男 記)

同好会だより

当会会員の方は、いずれの同好会にも自由に参加できます。

音楽同好会

世話人 市川 彰彦 TEL 042-308-8181



音楽同好会 11月25日(月) 13時半より 市民センター 2階第6会議室
 会員の皆様には「心の名歌集」と小歌集1・2をご持参ください。お持ちでない方にはコピーを用意しています。当日は20曲ばかり用意しております。最初はいつもとおり東村山稲門会の歌を歌いますが、詩の中で「水面」をミナモと読まずみずもと呼称している事に疑義がありますのでみなさんの意見をお聞きます。なお当日は唱歌から「野菊」「もみじ」、世界民謡「ともしび」「冬の星座」や日本の懐かしい抒情歌や、井手さんがハーモニカの演奏で「東京ラブソディ」「湖畔の宿」ほか演奏します。
 みなさんから歌ってみたい曲、覚えていた曲をお寄せください。

ウォーキングの会

世話人 高橋正夫 TEL 042-309-3407
 阿部 茂 042-332-0298



残暑も終わり秋が来た……はずの9月22日、等々力溪谷から五島美術館を散策しました。所沢から直通で自由が丘へ、東急大井町線に乗り換えて等々力で降りて等々力溪谷を歩きました。都区内唯一の溪谷ということで、周辺台地との高低差10Mの谷底(?)は気分のせいか涼しく感じられます。溪谷は600Mで終わり、野毛大塚古墳へ。公園の端に小高い山があり、登ってみるとアレマ、前方後円墳ではありませんか! 世田谷区にこんなものがあるとは等々力でなくてオドロキです。五島美術館の庭園を散策しましたが、国分寺崖線の境目にあって斜面を利用した日本庭園で、上り下りの激しい庭でした。今回は秋らしからぬ蒸し暑い気候に加えてアップダウンの多い(含歩道橋)ウォーキングで少しきつかったかも。自由が丘で昼食をとり、直通電車で所沢へ……のつもりが人身事故で池袋止まりのおまけ付きでした。

参加者(敬称略) : 青山、阿部、井手夫妻+令嬢、大内、小林(傳)夫妻、高橋、滝来、土橋、額田、福田、山本、吉澤

○11月度予告「横浜・三溪園と中華街・山下公園を巡る」

日本の名園とされる三溪園を見学してから横浜埠頭にある山下公園～中華街と歩き、中華街で昼食を取った後、外人墓地一港の見える丘公園を巡る予定です。帰路は元町・中華街発の直通急行で所沢駅に帰着します。(所沢着16時過ぎ頃の予定)

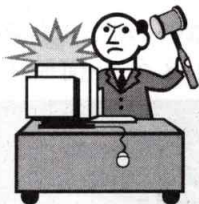
日時: 11月24日(日)

集合時間・場所: 午前8時20分 所沢駅池袋方面行きホームの池袋より(8:30発元町・中華街行き直通急行に乗ります。横浜駅から三溪園前まではバスで。)

雨天の場合は中止の予定ですが、一応7時30分までに高橋宛、電話にてご確認ください。なお日曜で中華街が混雑する可能性があり、昼食の席を確保する関係で、できれば事前に参加予定を高橋あてご連絡いただければ幸いです。(電話またはメール mso88taka@jcom.home.ne.jp)

パソコン同好会

世話人 小菅 宏 TEL 042-391-0219
 福田 昇七 042-391-9726

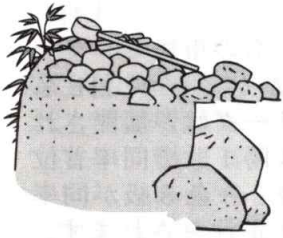


A クラスは「メール」を継続して勉強しています。また、インターネットを利用して、買い物をする方法(本を買う、石鹸を買う…)、薬の情報を調べるなどを復習しました。

B クラスは、「エクセル基礎」を勉強中です。エクセルの「シート」を増やす方法、複数のシートに全く同じ帳票を作成する方法、複数の帳票の同じアイテム毎の合計を集計表にまとめる方法を学習しました。(串刺し計算と言います。) 次回は、年賀状の宛て名印刷をパソコンで行なうにトライします。ワードの差し込み印刷機能を使って A クラス、B クラスとも行う予定です。当面の日程は、8ページの「同好会等 短期予定表」をご確認ください。

俳句同好会 (稲酔会)

世話人 井垣和太 TEL 04-2924-2934



第70回「稲酔会」俳句会は、10月26日(土)午後2時半から「丸藤2階」で開催されました。

連日の台風接近情報に開催も懸念されましたが、午前中で雨も上がり、開始時間を30分ずらしただけで句会を無事開くことができました。

出席者は、栗島三郎、井垣稲雀、内藤慎、丸本北窓、山下波雲の5名。投句参加者が出田麦穂、風間和夫、菊田一平、幸田瑞雄、高部糸行、八木竜湖、の6名。投句参加者が出席参加者を上回ったため、清記の時間を合理化し、

出席者も事前に世話人に5句をメールで送り、11名分の計55句を印刷して句会場で配布し、直ちに選句、合評へと移る初の試みをしました。

全員で句箋を分担し書き写すのも、脳活に効果的な作業ですが、選句に掛ける時間が多くなり、ゆっくり見比べながら選べるメリットもあります。欠席投句者も選句に加われることも可能になりますので、今後もこの方式でやっていくことも検討したいと思います。

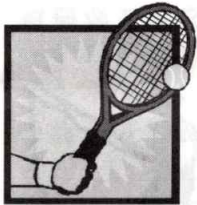
とはいうものの、ホットな鑑賞、合評による俳句の勉強は句会出席に勝るものではありません。それに、句会後の四方山話を肴に一杯やる楽しさこそ「稲酔」俳句会の真髄です。

次回第71回「稲酔会」忘年俳句会は、12月28日(土)に「丸藤」2階で開催いたします。兼題は「数え日」です。(「もういくつ寝るとお正月」の心境を詠いましょう)

(稲雀 記)

テニス同好会

世話人 田島隆夫 TEL 042-396-7676



第3回テニス同好会合宿は、25年10月14日(体育の日)と15日の2日間、「ニューサンピア埼玉おごせ」にて行われました。この施設は、越生梅林の近くで、緑に囲まれており、テニスコート、ゴルフ練習場、プールなどを備えています。

第1日目

参加者は11名、この日は日影が欲しくなるほどの晴天に恵まれました。午前11時に開始、野田(直)さんの指導で入念な準備運動、スキップや後ろ向きのランニングなどでは足がよたよたする場面も見られました。続いて講習、コーチは野田(直)さんと野村(重)さん、ストローク、ボレー、試合形式の練習などを行いました。講習は普段なかなかできないので、合宿の時に重点的にすることにしています。昼食をはさみ、午後は豪華賞品(?)を競う本番の試合です。ダブルスを組むのは1戦1戦変わりますが、勝点を個人ごとに集計して順位を決めます。この複雑な組合せと進行を担当してくれるのは、江藤さんと滝来(京)さんです。試合は、講習の成果が早速現われた人、絶不調の人など様々でしたが、全員が体力の限りを尽くし、第6戦まで戦い抜きました。

夜は宴会です。宴会は当会ではテニスと同じくらい重要な行事です。1日中テニスをした後なので、ビールやワインが良く売れました。やがて成績発表が行われ、優勝は野村(重)さん、準優勝は高橋(一)さん、ブービー賞は當間さんでした。受賞者のスピーチでは、「試合ばかりに走らず、基本的な技術を磨けば試合がもっと楽しくなる」「次回は賞品代の増額を」と言った意見も出されました。

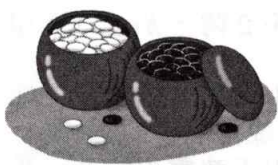
引き続き幹事部屋に移り、稲門会のことや世の中のこと等を語り合い、市川(彰)さんのカリパ伴奏で歌を歌って第1日目は幕となりました。

第2日目

台風26号の接近が報道されていましたが、やれるところまでやろうと、予定より早く始めました。先ずストロークやサーブなどの練習を野村さん、高橋さんがコーチとなって行い、その後、前日と同様にダブルスの試合に入りました。この日は賞品無しだったのですが、皆さん必死に頑張って第6戦まで戦ったのには驚きました。プレーが無事終わったところに雨が降り始めました。近くのお蕎麦屋さんで昼食をとり、太田道灌父子のお墓がある龍穩寺に参詣、自然休養センターで休憩の後帰途につきました。今回の合宿は、天候に恵まれ、特に怪我人も無く、スポーツと懇親と言う目的はまずまず達することができたと思っています。

囲碁同好会

世話人 福田 晃 TEL 042-394-0593
高鷲 近 042-394-2336



「第27回東村山稲門会囲碁大会」は、10月19日(土)、いつもの市民センター別館第6会議室で開催されました。夕方より雨との予報にもかかわらず、11名が参加して、A・Bの2つのグループに分かれ、真剣な熱いリーグ戦が展開されました。その結果、Aグループは、野村四段と福田七段が4勝1敗で同率首位会の規定で年長者の野村さんの優勝となりました。Bグループも大接戦で中川5級と一色5級が同率首位。規定により中川さんの優勝と決まりました。このところの中川さんの棋力向上が注目されます。

<参加者/敬称略> Aグループ……福田(晃)・堀田・野村・高鷲・丸本・高橋(鶴)

Bグループ……江藤・塩田・中川・一色・杉山

次回の「例会」は、平成25年12月21日(土)、市民センター別館を予定しています。

詳しくは、次号の『稲門会ニュース』でご案内します。

カラオケ同好会

世話人 内藤 慎 TEL 042-393-5071



9月例会は9月7日(土)に賑やかに開催しました。

初参加を含め10名もの多数で賑やかでした。参加者は井垣さん、小菅さんご夫妻、滝来さんご夫妻、南湖さん、吉田さん、山本さん、高鷲さんそれに内藤の大人数で賑やかに楽しく初秋の一夜を過しました。

今後の予定：10月は中止、11月9日(土)、12月7日(土)

(11月と12月は仮の予定です。)

東村山稲門会での経験を心の糧に

八木 勝利(S47政研)

帰郷して8年が過ぎた。生活環境を整えるのに5年がかかったように思うが、故郷には何かしら離してくれない離れ難い、引っぱられているような不思議な力が存在しているように思える。

さて、東村山在住の時には、東村山稲門会発足の当初から在籍し、特に退職前の6、7年はその後のことを考え、趣味を念頭にいくつかのサークルに積極的に参加した。そこでの友人・諸先輩との交流では、最後の学びともいえる時期で、後の生き方や人生観に通じる数多くの有意義な太い教訓を得た。具体的に列挙すれば切りがない。

俳句、園芸の会、ウォーキング、カラオケには正規に入会した。その他時々顔を出させていたサークルもあった。前期四つの種目はこの8年の間も継続し、いまだに絶えたことがない。当地での生活に楽しさと充実感を与えてくれている。そのお陰で私には趣味が多いと言える。

趣味は多い方が良いのだろうか。一芸に没頭専念し一途に磨いた方が良いのだろうか。これは良し悪しの問題ではないのだろうが、私はどうやら、良く言えば多趣味、悪く言えば気の散る一つには集中できないタイプのようなのである。

夏季に入ると鮎釣りに心が躍り浮き立つ。そのため、じっと静かに思考し推敲を重ねなければならない俳句が疎かになり良い句が作れない。少なくとも満足 of いく作句ができずにそこそこで妥協する。「稲酔俳句会」の諸兄にはそれを見透かされているだろうから合わせる顔がない。投句に休み中断がなかったことに免じてお許しいただきたい。

鮎釣りと言え、少年時代に父と兄の後を追いつれられ、見覚え手ほどきを受けた。最近の豪雨の影響で、川の様相が変わってしまった部分はあるが、記憶にあった川筋・流れ・曲り・川の香りに大まかには変化はない。良く釣れる場所・水温・時間・流れ具合など察知する力は微妙に身体に浸み込んでいる。若鮎、盛りの鮎、下り鮎・落ち鮎に生命の流れと循環を垣間見る思いがする。「鮎よまた来夏」という思いを抱くよう心掛けています。

私には東村山は第二の故郷以上の思いがある。出来る限り年齢と体力の許す限り在籍し、稲門会諸兄との関わりを大切にしたいと思っている。



えりかチャン、「美談」と「感動」のお話！

山下 邦康 (S36教育)

「えりかチャン」は三人姉妹の最後の子として、生まれてきた。赤チャンの時は家族から祝福されて少しずつ育っていった。とても可愛い女の子。「えりか」には長女でとても優しい「ゆきえ」お姉チャンがいた。次女のお姉チャンやお母さんも笑顔でいてくれ お父さんも叱ったりしない。「えりか」には家族と一緒にいるのが何より嬉しかった。「えりか」が三歳程になると「えりか」の仕草や反応に少し頭を傾けることが多くなった。心配した母親は医者「えりか」のことを診てもらふことにした。医者は「えりか」さんは頭に障害がと親に告げた、「今の内に専門の施設に入った方が将来「えりか」さんのためにも」と予想もしなかった「障害者」と言う言葉にショック！「えりか」には内緒にと言わぬ約束を家族で悲しくも誓い合う。こうして「えりかチャン」は施設に入り生活をするようになった。「えりか」は涙を堪えて優しい家族の皆と別れた。

ある日施設の「オバサン」が言った、「えりかチャン」「ゆきえ」お姉さんが結婚することになったらしいわヨ、お目出度いことだから我慢するのよ」と慰めてくれた。「えりか」は何を考えたか知らないがオバサンに「白いキレが欲しい お姉チャンにウェディングドレスを作るから」と話した。施設の人にはビックリ！施設中、大小のシーツや布きれを見つけ持ってきた。「えりか」は「見よう見真似」でツギハギダラケのウェディングドレスを縫い上げた。

「えりか」はお姉チャンの「結婚式」が来るのを楽しみにしていた。

施設の人が「ドレス」のことを母親に話したが「結婚式には出さぬ方が こんなツギハギ・ドレスでは、それに障害もあるし」「花嫁には立派なドレスがあります」とつれない返事。結婚式の日が近づいても「えりか」には案内状が来ないので「ゆきえ」お姉チャンに聞いてみた。

「ゆきえ」お姉チャンはとても喜んでくれて「えりか、本当に有難うネ〜」「大事に着て、結婚式に着て出るからネ」と言ってくれた。婚礼当日、お色直しの時間、花嫁は妹「えりか」が懸命に作った「ツギハギウェディングドレス」を着て登場！事の次第を聞かされた招待者から大拍手と感動の渦、花嫁と婿の間にあの「えりか」が一緒に両手を握られ、女性客は涙、涙、の結婚式であったと云う。そして何より少女「えりか」が嬉しそうだったという。

「温かい心」をもった「えりかチャン」の将来に幸せあれ！

昨今の世の中は殺伐としていますが、日本にもこんなに温かい感動的な「実話」が語り継がれています。私も時々、講演やスピーチの素材として話しています。

早稲田の歌人たち（1）

出田 邦博 (S45文)

《マッチ擦るつかのま海に霧深し身捨つるほどの祖国はありや》

寺山修司 一昭和10年青森生まれ、同58年47歳で夭折—

早大に進学した寺山修司は短歌研究新人賞を受賞、歌人として出発。更に俳人、小説家、劇作家、ジャズ・競馬・ボクシングの評論等多方面で活躍した異才であった。大学は24歳で中退している（名を成した中退者が多いのも早稲田の特色か？懐の広さか！）。

冒頭の1首は幻想的な情景の中で若者の鬱屈した思いを国に鋭く問い掛けた歌。この母国に命などは捧げられないとの結句は辛辣だ。修司は9歳の時、青森大空襲に遭い逃げ惑っている。父はセレベス島で戦病死している。

「国破レテ山河在リ」から68年余、今や逆に麗しき日本の「山河破レテ」、この身捨て難き金権の「国在リ」になってはいまいか。

何時の時代でも進取の精神に富み社会に埋没せず我が道を貫かむとする人はいる。そういう人々にとって彼の歌は心の発火点となっている。（今春、寺山修司没後30年に当り資料約5千点が母校の演劇博物館に寄託され、11月には「寺山修司展」が開催される。）

同好会等 短期予定表

同好会・行事	11月					12月					世話人 (問合せ先)
	日	曜	時間	場所	備考	日	曜	時間	場所	備考	
ウォーキングの会	24	日	8:20	所沢駅池袋方面ホーム		—	—	—	—		高橋正 042-309-3407
郷土史の会	—	—	—	—		—	—	—	—		高橋正 042-309-3407
テニス同好会	10	日	11:00~13:00	久米川コート3		8	日	13:00~15:00	久米川コート3		田島 042-396-7676
	20	水	13:00~15:00	久米川コート3	予備日	14	土	9:00~11:00	運動公園A	予備日	
囲碁同好会	—	—	—	—		21	土	13:00~	市民センター別館		高鷺 042-394-2336
カラオケ同好会	9	土	17:00~	カラオケ家		7	土	19:00~	カラオケ家		内藤 042-393-5071
園芸の会	—	—	—	—		—	—	—	—		當摩 042-396-3033
麻雀同好会	—	—	—	—		22	日	12:30~	サロン「園」		阿部 042-332-0298
音楽同好会	25	月	13:30~	市民センター		—	—	—	—		市川 042-308-8181
俳句同好会	—	—	—	—		28	土	14:00~	「丸藤」2階		井垣 04-2924-2934
ゴルフ同好会	—	—	—	—		—	—	—	—		紅松 042-393-6924
早稲田スポーツ応援の会	23	土	13:00	秩父宮ラグビー場	早慶戦	1	日	13:00	国立競技場千駄ヶ谷門	早明戦	大内 042-393-6543
パソコン同好会	9	土	10:00~12:00	シルバー人材センター	勉強会	7	土	10:00~12:00	シルバー人材センター	勉強会	小菅 042-391-0219
	30	土	13:00~15:00	シルバー人材センター	勉強会	—	—	—	—		
	30	土	15:00~16:00	シルバー人材センター	相談会	—	—	—	—		
雑学講座	—	—	—	—		14	土	15:00~18:00	サンパルネ	映画会	當間 042-391-6027

— : 対象月に開催予定無し * : ニュース編集時点で未定。詳細は世話人にお問合せ下さい。

編集局だより

○ ようやく少し秋らしくなったと思ったら、もう今日あたりは少し冷える感じがします。夏と冬がその存在を主張して威張

り散らし、気持ちの良い春秋はどんどん短くなっているようです。また、この秋は台風がたくさん襲来して、各地に深刻な被害をもたらしました。この頃の気象異常は、単に異常だとは言っておられなくなった気がします。困ったものです。

○ 今回もたくさんの原稿が集まり、編集にはちょっと苦勞しました。字体が小さくなって少し読みにくいでしょうか。申し訳ありません。

○ 次号の締め切りは11月24日(日)です。よろしくお願いいたします。(當摩 照夫)

Fax : 042-396-5698 email : teruo_tohma@ozzio.jp

俳壇

そこここに寝息夜長の奥羽線 菊田 一平
電池入れ替えて芋煮の着火マン 幸田 瑞雄
秋入日静かに見るや六地蔵 高部 糸行
目薬をさしてまた読む夜長かな 内藤 慎
身に入むやひざ掛け通す床の冷え 丸本 北窓
夜長には赤ちやうちゃんが良く似合う 八木 竜湖
ふるさとの名月観んと丘登る 山下 波雲
大雨に名月見えぬ寂しさよ 栗島 三郎
移る日やえのころ草の風に揺れ 飛鳥まで夢さかのぼる夜長かな
雁渡し焦熱地獄も思い出し 妻の灯と我と長夜のWebかな
落鮎に川瀬は音を低めけり 老身にお代わりしたき今年米
燈火親しものごとの皆詩的なり 庶民の味夕餉いろどる初秋刀魚
山 井垣 稻雀
眩しとも見えし昭和よさんま焼く 出田 麦穂
尖って生きた一生初さんま 月明かり早稲田通りの古本屋
傾きし秋の簾に夕日射す 風間 和夫
長き夜をドクターからの結果待つ 時刻む柱時計や夜半の秋